

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

きのふけふ雨降り低温ひきずりてまた梅雨のやう日の恵み待つがんばれと声張り上げて応援す甲子園児はふるさとの子ら

ころすでに畑道なれど朝の雨しことは無理と床の中なる 阿部みさ子

早起きの空の青さとわが庭のバラの香りに生氣いただく 阿部はぎの

靖国の御霊祭りの絵灯籠たまゆらの灯を夫とめぐりぬ 石田みどり

毎朝の散歩に通う田んぼみち葉先にみずたま出穂終る 高子たちばあ

山巡り好める夫のデジカメにシラネアオイがひそと咲きおり 鈴木 茂子

目に見えぬ汚染おそるる夏野菜よそにやれぬがみな出来はよし 遠藤 行夫

髪結ひて浴衣姿に笑まふ母ゆめにあらはれ言葉なく去る 佐藤 啓子

咲きました一番乗りのむくげ花まぶしく一輪太陽に向く 遠藤 舞

【評】一首目、上の句が不順な天候を巧くとらえていよう。「待つ」という日輪への思いも印象的だ。

二首目、飾らずに詠まれた分、気もちよく、強く、響いている。

三首目、出鼻をくじかれた思いが、よくわかる歌。

俳壇

遠藤 秋尾 選

子供等の視線も削り氷水 岩澤 伍峯
引導の喝が炎天はねかへる 斎藤 典子
咲く月下美人のふりしほる 跡部 祐子
恙なく古稀を祝の月見酒 岩松 隆志

今年の夏に同級会に参加しました。中学校や高校の同窓会ではなく、小学校の6年4組の同級会です。

昨年、数十年前ぶりに開催され、今年で4回目。「50歳になったし、久しぶりに集まろうよ」との声に押され開催されたのが始まりでした。中学校の同窓会で会うメンバーとはとんだ変わりがありませんが、「小学校の同級会」というのは、何か違った雰囲気がありました。

担任の安藤美貴子先生には、2年連続でご参加いただきました。

先生は何年経ってもお変わりなく、うれしく思いました(これは私だけではないと思います)。

先生に年齢をお伺いしたところ、それは忘れることにしました。考えてみれば、私たちが小学校を卒業し、既に数十年を経ているわけですから、先生もそれだけの年を重ねていらつしやるわけです。

しかし、当時と変わらなく感じるから不思議です。その先生の前にいくと、今でも昔の気持ちに蘇り、背筋がピンツとなるのもこれまた不思議なものです。私は良き生徒で

はなかったので、余計そう感じるのかもしれませんが…(これはお世話になった先生方すべてに共通しています)。子ども時代にお世話になった先生方にお会いした時、皆さんは如何ですか？

今年は関東や仙台からの参加もあり、当時のクラスメイトの約半数が一堂に会し、みんなが小学校時代に限り、「健坊」「悦ちゃん」「成ちゃん」と当時のように呼び合いなが

風間市長の風のことわざ

「同級会」

ら、参加者全員が楽しく心癒されたひとときを過ごすことができたと思います。やはり、幼き時を共有した仲間、同級生は良いものですね！ 今年

は震災後から特に…。今回、印象に残ったことは、それぞれが昔話に華を咲かせていても、先生の話が始まるとみんなが当時さながら聞く姿勢に入ったことです。「人の話を聞きその事を信じる」というのは、子どものこ

ろは素直に、自然にできているのに、人間は成長するにつれその事が段々難しくなるのでしょうか。テレビや雑誌、井戸端会議などから得た知識で「自分は何でも知っている知識人」と錯覚するのか、それとも知恵が付き、自分に都合の良い事だけを聞き入れる方もいるように思われます。時には専門家の意見にさえも耳を貸さなくなり、「信じる」という事ができない方も増えていくような気がします。

その情報が正確であるか、事実と違ってないかなどを自分で確かめる事をしなぐなりがちではないでしょうか。小学校の先生からも「よく確かめるように！」と言われたことを思い出します。今でも素直な気持ちでい続けているつもりですが…。皆さんは如何ですか？

この原稿を書いている時に、第95代内閣総理大臣に野田佳彦さんが就任しました。約半年経った震災の復旧・復興に強く「アクセル」を踏んでくれることと、日本経済の景気浮揚を大いに期待しています。みんなで復興！がんばっぺ！ 白石

—思いやりのある良質で信頼される医療を目指して—

公立刈田綜合病院紹介



公立刈田綜合病院 ☎25-2145

リハビリテーション病棟紹介

リハビリテーション科 部長 渡辺 茂

宮城県仙南地域での急性期を脱した患者さまに対するリハビリテーション病床の不足が指摘されてきましたが、公立刈田綜合病院の6病棟に、平成23年4月から正式に「回復期リハビリテーション病棟」を開設しました。

近隣の先生方をはじめ、患者さまにもその存在が少しずつ知れ渡るようになり、回復期リハビリテーション病棟としての実績が、徐々にではありますが上がってきております。

「回復期リハビリテーション病棟」は、脳血管疾患や脊椎骨折、大腿骨頸部骨折などの患者さまに対して、筋力が弱くなって歩行することが困難になったり、食事が上手にできなくなったりしないように、日常生活動作の能力を向上させて、回復するようにリハビリを行い、寝たきりの防止と自宅での家庭生活に一日でも早く戻れるように、リハビリを集中的に行うための病棟です。

そこで行われる治療に携わっている職員は、医師・看護師・看護助手・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・

医療ソーシャルワーカーなど多種に渡り、複数の専門職種が連携して、包括的に患者さまの医療看護に携わっております。

東日本大震災後、当院でも1市2町の方はもちろん、気仙沼で震災に遭われ避難所で倒れた患者さまや、仙台市内の病院でリハビリ病棟が半壊状態となり、リハビリ訓練が継続困難になった患者さま、さらには福島第1原子力発電所の事故により入院継続できなくなった患者さまたちを受け入れ、職員一丸となって乗り切りました。

今もなお、多くの大震災被災者の皆さまが、避難所生活を余儀なくされております。被災された皆さまが早期に復興されることを願いつつ、私たち刈田綜合病院でも、急性期医療にとどまることなく、回復期までの中長期の医療を行い、患者さまが一日も早く社会復帰できるように回復期リハビリテーション医療を職員全員で行っていきたいと思います。



リハビリガーデンでの訓練

まちの話題

～あの日、あの時～

互いに競い合う仲間！

海老名市・白石市姉妹都市親善野球交流大会

8月20日、益岡公園野球場で「海老名市・白石市姉妹都市親善野球交流大会」が開催されました。20回目を迎えた本大会は、雨が心配されましたが、スポーツ日和の天候に恵まれました。

前日にバスで本市に到着した海老名市選抜チームの子どもたちは、本市選抜チームの子どもたちの家庭にホームステイして、交流を深めながら試合に臨みました。

試合は、両市から選抜された小学生がA・B2チームに分かれ、2試合を行い、海老名市選抜チームA・Bチームが見事勝利！熱戦を繰り広げましたが、本市の2チームは、残念ながら海老名市選抜チームから勝利を勝ち取ることはできませんでした。10月には、本市選抜チームが海老名市を訪れます。本市選抜チームはリベンジを誓い交流大会の幕を閉じました。



1_選手宣誓を行う大野聖徳くん 2_7回表大きなヒットを放つ水野一樹くん
3_塁に出た選手に声援を送る選手たち 4_好投で投げきった遊佐光希くん